

建交労北海道本部第22回定期大会 総選挙で政治の転換を

10月3日、建交労北海道本部第22回定期大会をオンライン併用で日程を1日に短縮して開催し、会場参加とオンラインでの参加を合わせて代議員・執行部など28人が出席しました。また17人の代議員から委任状が提出されました。大会では、森国委員長が「労働者・国民の生活は賃下げがすすんで厳しさを増す一方で大企業の内部留保は年々増えている。新自由主義の結果だ。私たちは昨年からの1年間で、コロナ禍のもとでも貴重な成果をあげ、組織拡大でもわずかながら純増となった。岸田内閣が発足するが、アベ・スガ政治が引き継がれる。政治の転換が求められており、総選挙での立憲野党の前進が私たちの要求を実現する道だ」とあいさつしました。宮澤書記長が議案を提案して討論がおこなわれ、すべての議案が圧倒的多数で可決されました。

討論では、函館支部の鈴木代議員が青年部の反核キャンペーン「折り鶴プロジェクト」への全道の仲間の協力(650羽)に感謝を述べるとともに、建設現場調査のとりくみや社会復帰事業団の仕事確保などを報告しました。釧路支部の野村代議員は組織拡大のとりくみとともに、労災患者のモラルなど組織強化のために学習会にとりくんでいることなどを発言しました。札幌学童保育支部の原代議員からは学童保育の「基準」についての意見や総選挙闘争などについて発言がありました。

新年度の役員については事前の郵便投票により選挙をおこない、森国委員長などを再選しました。なお、今大会をもって深浦副委員長(函館支部)、石井執行委員(後志労災支部)、斉藤執行委員(旭川支部)が退任し、新しく河合副委員長(函館支部)、須貝執行委員(旭川支部)が選出されました。

なくせじん肺キャラバンがスタート

「2021年・第32回なくせ北海道じん肺キャラバン」は10月1日に出発集会をおこない、午後からは道庁に要請しました。出発集会は「なくせじん肺北海道会議」総会を兼ねて開かれ、1年間の活動をまとめるとともに、建設アスベスト訴訟の全面解決をめざすことなど新年度活動方針を確認しました。(＝詳しくは続報)

北海道鉄道本部がパークゴルフ大会

北海道鉄道本部は9月20日に予定していた恒例の「みんな集まれ観楓会」を新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のもとで中止しました。中止の連絡を受けて組合員からは「久しぶりに顔を見られると思っていた」「楽しみにしていた」と残念がるとともに、来年こそは感染が収束し組合員と家族・OBが安心して集えることを願う声がよせられました。

観楓会と一緒に開催していたパークゴルフ大会は、感染防止対策を徹底して江別市角山パークゴルフ場で14名が参加して実施しました。曇り空でしたが暑くも寒くもないスポーツ日和で、この日のプレーで歩いた歩数は6000歩。芝生の上で健康的に過ごしました。優勝はスコア102打の苗穂支部・最上さん、準優勝は103打の苗穂支部・宮武さん、3位にはホールインワンを出した104打の苗穂支部・田中さんと上位3人が1打差で並ぶ接戦で5位までが苗穂支部の仲間が占め、ブービー賞も苗穂支部・末田さんと苗穂支部の皆さんが大活躍でした。